

# 京都教区時報

京都教区広報委員会  
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局  
京都市中京区  
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

## 2021年 司教年頭書簡を受けて

今年の司教年頭書簡は「『すべてのいのちを守るため』Ⅱ『コロナ時代を生きる信仰』』というタイトルです。京都教区時報では、これから毎月巻頭にて、教区で働く司祭が、それぞれ派遣されている場で、この書簡を通してどのように生きているか、分かち合いをしていきます。

### 第1回 コロナ時代と心の渇き

年頭書簡で、最初に語りかけられていることは、「神と静かに語りあう」ということの意味です。「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。神にわたしの救いはある」という詩編62の言葉が引用されて、沈黙の時を持つことの大切さへと導かれます(年頭書簡1)。今の時代は新型コロナウィルス感染症によるパンデミックの中にありますが、こういう時代だからこそ、落ち着いて静かに心を澄ましてみることによって、すべての根底を流れている深い安らぎを見いだすことができな

いでしょうか。  
たとえば、こんなことに気がつきます。人間の生活は大きく変わっても、自然の移ろいゆく姿はまったくいつもと同じなのです。朝、宇治川の畔を歩いていると、輝く太陽が東の空に昇りすべての命を照らします。人間の暮らしが大きく変わってしまった時代だからこそ、ずっと変わらない自然の安定したあたたかさが身に沁みてこないでしょうか。社会にも自分自身にもいろいろなこと



朝焼けの観月橋と宇治川

ない落ち着きをもち、移り変わっていくものの深みに存在する確かなものを見つけ、そこに根ざす生き方へと、今、私たちは招かれているのかもしれません。

年頭書簡ではフランススコ教皇が語った「愛の抗体」について取り上げられています

(同9・10)。教皇は、すでにわたしたちが他者の苦しみを自分のこととして苦しむことのできる力を持っていることを力強く語られますが(『パンデミック後の選択』56頁)、このような愛の抗体が自らの内で活性化するためにも、心の深みでの神と出会う祈りの時間が欠かせないのだと思えます。年頭書簡は語ります。「コロナ禍も、神の視点から見れば、きつと未知の祝福の入り口となるに違いありません」(7)。  
この時代を通して私たちが自分の本当の渇きに気がつき始めているのだとしたら、それは大きな恵みなのです。

京都南部地区

洛東ブロック担当司祭

菅原友明

2  
2021

すべてのいのちを守るため  
 『教皇フランシスコ訪日講話集』を読む  
 (最終回)

### 永遠のいのちに消える 一滴(ひとしずく)

「すべてのいのちを守るため」に来日された教皇フランシスコのメッセージを1年かけて読んできました。クライマックスは、東京ドームで献げられたミサの説教にあります。皆さんもこれに注意深くお読みになったことと思います。

私はその中で「すべてのいのちを抱きしめる」という言葉に胸をうたれました。「いのち」、そう「すべてのいのち」なのです。すべてのいのちは与えられたもので、神が造って「よかった」(創世記1章)、「美しい」と思われたいのちです。「完全でなく、純粹でもなく、純化されていなくても、愛をかけるに値しないと思っただとしても、まるごとすべてを受け入れるのです」と教皇はおっしゃいます。その受け入れられたものに私たちもいます。

イエスは病気の人、目の見えない人、体の不自由な人を抱きしめました。そして、一緒に十字架にかけられた盗賊をも……。イエスはすべてを美しき、愛おし

み、大切に思い、氣遣われるのです。

説教は、ミサの福音朗読のマトイによる福音書(6・24-34)の箇所からです。その中の「思い悩むな」という言葉は、神のあたたかいみ摂理を語っているものだといわれます。しかし、このとても詩的な感動的な言葉は、イエスが自然を見、野の百合、空の鳥を見ながら、ああ美しいなあと御父の業を讃えておられたのではないかと思うのです。イエスは詩人なのです。創造の時のあの御父の感動と、イエスは同じ心でおられたのだと思います。これが「すべてのいのちを氣遣い、抱きしめる」ことなのです。

生老病死、これは人間が担う四つの苦しみといわれます。しかし私は、これを神の四つのいのちの流れ、恵みの流れとして捉えたいのです。

私も老い、すでにこの恵みの中で三つを体験させていただいています。残るのは死(主)の到来のみです。私は想像するのです。私は「大きないのちの流れ」の中の一滴の水、水面に浮かぶ一片の花びらだと。やがてこの一滴も母なる海(神のふところ)に入っていくでしょう。岸边に立って夕日を眺めていると、この母なる海は天とつながっている、天を父とすると、母にして父なる天地の創造主の「いのち」の中に招かれていくのだと思

います。死は、その神との出会いなのです。なつかしい父との。

今日は、窓から暗雲が覆っているのが見えます。しかし、あの雲の向こうに光がある、青空がある。光は闇に輝くのです(創世記1・2、マトイ4・16)。光は神です。

今、コロナウイルスがもたらす混乱は、私たちがあまりにも神から離れ、物質的な偶像の虜になっている現代への警鐘なのかもしれません。ともかく、一度、天地の創造主、私たちの神であるアッバに帰ろうと呼びかけているように思えます。

広報委員会担当司祭 村上透磨



## 乾隆神父のイタリア留学記(4)

京都教区司祭 大塚乾隆

皆さん、こんにちは。2月号の教区時報の原稿の締め切りが12月半ばなので、いつものように「時差」はありますが、今日は、コロナのことではなくて、10月から始まった授業のことをテーマにします。まだ学び始めて少しですが、「その土地で学ぶことで、実際に人が生活し、生きていることを感じている」ということを分かち合いたいと思います。

数年前にラテン語版『ミサ典礼書』が改訂されました。英語版はすぐに改訂版が出されました。その後日本語でも改訂に合わせて所作が少し変わり、でもいつまでたっても日本語版『ミサ典礼書』が改訂されず、「遅いなあ」と思っていました。他にも、1965年に第二バチカン公会議が終わり、ようやく1983年に教会法ができるまでのことを本で読んで勉強していました。

さて、10月からの授業で、教会法の改訂作業のことを学びました。約20年かけて作られたことになりました。同じことを本で読むのではなく、その現場

で学ぶことで、過渡期にいる人たちはどう思うか、過渡期にいたんだろうとか、その間のように過ごしていたんだろうとか想像しました。典礼が大きく変わろうが、教会法が変わろうが、そこに人がいて、その人たちが生活して…ということをして、私は日本を離れて初めて想像することができました。

日本人の感覚としては、「教会法の改訂作業をもっとテキパキできるだろう」と思うのですが、ここはイタリアですから日本と同じような感覚では進みません。もちろん大変な作業だったということもあるでしょうが。だから、『ミサ典礼書』の改訂も数年でできるわけではないということ、勝手に納得しています。『ミサ典礼書』の改訂も実際は日本でなされますし、日本以外の国で使われる



レポートの合間のコーヒーとチョコ

ことではないでしょう。でも、いくら日本だけで完結しそうな改訂も、バチカンの認証を受ける必要があるのです。ですから、どうしても時間がかかってしまいます。

同じことは、教会史の授業でも感じています。年表を追うだけでなく、ストーリーとして聞くことで、そこに人がいて、その中で一生懸命生きていることを想像しました。〇〇年に××が起こって、次に△△が…と字面で追うこともできるわけです。でも、それはあくまでも結果であって、そこにたどりつくためには多くのドラマがあるんだと思います。さらに、教義が成立していく中でも、その教義を知らずに亡くなっていった人たちもいることを改めて考えたとき、それでもイエスさまは当然その人たちを救われているということも感じられました。

今、私は幸いに定期的にインターネット(Zoom)を通じて、望洋庵で講座を担当し、青年たちと共に「教会・神の民」について深めることができます。また、京都にいたときに関わっていた小学校でもZoomを使って話をする機会があるので、「実際に人がいる」ことを意識できます。「教会」とか「神の民」というテーマについて、本だけではなく少しではあっても、人との関わりの中で学べていることに感謝しています。「無我夢中」という言葉がふさわしいのかもしれない。

イタリア語での授業と、ラテン語で教会法の条文を読むことに、ようやく慣れてきた今日この頃です。



コロナ感染が拡大の中、以前から計画していた現地学習会「人権のふるさと水平社博物館と御所教会を訪ねる」を実施しました。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と高らかに人間の尊厳と平等をうたいあげて1922年3月3日に創設された全国水平社。結成の中心となった御所市柏原の青年たちの戦いの歴史を永遠に残すため、水平社歴史館（水平社博物館）が1986年に建設されました。わたしたちも差別のない社会をつくるため、闘った先人たちの思いを学ぶことが出来るようにと願っての学習会でした。

到着後、2班に分かれてフィールドワーク。博物館の周辺には、水平社ゆかりの史跡が多数点在していて、「橋のな川」の情景や、ボランティアガイドさんの説明がそれぞれの記念碑や場所についての理解を助けてくれました。

館内の展示では大和同志会の運動も紹介され、考え方が違っていても差別を許さない仲間であることを知らせていま

す。また、「全国水平社の支援者たち」のコーナーでは、部落外の多くの人々が運動を支えていたことがわかり、様々な団体や人々と手をつなぎ、差別を許さない「水平社宣言」が大切にされる社会を共に目指すという姿勢を強く感じました。

注目したのは

は、「荊冠旗（けいかんき）」です。「荊冠旗」の荊（いばら）の冠はキリストが処刑の際に被せられた冠で、解放を求めて差別と闘う人々を



「殉教者」にたとえているそうです。暗黒を表す黒色が強烈に迫って、大正時代にキリスト教がどれほど浸透していたのか、イエスの壮絶な苦しみと差別と闘う人々の様子を重ね合わせたことに感嘆しました。

館内は、感染拡大予防のためガイドさんの解説は実施されていなかったのが残念で、展示内容の理解を助けるガイドさんの重要性を改めて思いました。

御所教会は敷地が広く、素晴らしい庭園があり、その庭が見える聖堂で御所教

会の歴史を聞かせていただきました。

知らないことを学び、部落差別があるということをお忘れず、差別がなくなる日が来ることを祈りながら分かち合いをして、無事帰路につきました。

案内のちらしを見て申し込んでくださった方が数名おられ、広報活動の大切さを感じました。コロナ禍にあって、ご参加くださった皆さまに感謝いたします。



水平社博物館の前で

京都教区正義と平和協議会の詳しい活動については、京都教区のホームページ内にある「正平協」の



ページをご覧ください。（スマートフォンでQRコードを読み込んでください）

### 宗教学法人カトリック京都司教区 職員募集

カトリック京都司教区では、主に社会福祉法人事務を担当してくださる職員を募集します。

#### 【歓迎するスキル・経験】

- 事務経験者。ワード、エクセル等パソコン作業に堪能な方
- 社会福祉法人の事務職経験者は更に歓迎
- 経理職経験者
- 金融機関の営業職及び事務職経験者
- 右記全てマネージャー経験者歓迎

応募資格…不問（年齢は原則60歳まで。62歳までは応相談）

採用時期…原則 2021年4月1日（応相談）

勤務場所…(宗) カトリック京都司教区本部事務局

京都市上京区新町通一条上ル一条殿町502-1

カトリック西陣教会青年会館内

(数年後に中京区河原町通三条上ル

カトリック河原町教会内に移転します)

待遇…当法人規定による。社会保険等完備

応募方法…募集要項をお送りしますので、氏名と送付先のご住所をご連絡ください。

[honbu@kyoto.catholic.jp](mailto:honbu@kyoto.catholic.jp) 宛

選考は書類審査の後、面接を予定しています。

問合せ…(宗) カトリック京都司教区採用係

TEL 075-211-3025

11月7日(土)に、YES 2020を開催しました！  
 毎年たくさんの青年が集まるYESですが、今年は集まって合宿をする、というわけにもいかないので、オンラインでの開催となりました。  
 お知らせが遅くなったにもかかわらず、参加していただいた皆様、ありがとうございました！

テーマは「すべてのいのちを守るため」。  
 大塚司教様にこのテーマに沿った講話をしていただき、その後に少人数のグループに別れて分かち合いをしました。今誰と繋がっているか、今誰と繋がっていないか、今誰と繋がりたいかなどの、まさに今見つめなければいけないことを分かち合いました。オンライン開催ということもあり、発言のしにくさを感じましたが、積極的な意見交換ができたので良かったです。

三重地区運営委員・西院教会 栗井 幹



青年センターのホームページもご覧ください。



青年センターあんでな

### 大塚司教の2月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 2月のお知らせ

### 教 区

**聖書委員会** Tel/075(366)6609 ㊦㊦

**オンライン聖書講座(10~2月)**

テーマ：コロナの時代に聖書を生きる  
一混沌への光を探してー 第5回(最終回)

講 師：中川 博道師(カルメル修道会)

日 時：4日㊦ 10:30~11:50

申込者限定配信 オンラインで開催

詳細は聖書委員会まで

### 広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛

・メール/honbu@kyoto.catholic.jp

・Fax/075(366)6679

発信者のお名前を明記の上お寄せください。

※ 4月号の原稿締切り日は2月22日㊦です。

### 訃報

ヨゼフ・ナドウ師  
(聖ヴィアートル修道会)



97歳。2020年12月2日、カナダにて帰天されました。1949年に来日後、長年京都教区内でご奉仕くださり、2007年にカナダに帰国されました。司祭生活74年、ナドウ神父様の永遠の安息のためにお祈りください。



### 諸 団 体

#### 京都カトリック混声合唱団

練 習：14日㊦ 14:00 洛星宗教研究館  
27日㊦ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

#### コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：11日㊦・25日㊦ 10:00

河原町教会2階楽廊

変更の場合は連絡網にて

#### カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：14日㊦ 15:30~17:30

対 象：15歳~35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野

#### 聴覚障がい者の会

手話ミサと総会を2月2日に予定していましたが、コロナ感染症の蔓延を考慮して中止します。会員の方には後日郵送にて、総会議案書をお送りします。

事務局：Fax/075(361)9082 阿野恵子

#### 心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

K B S 京 都 ㊦~㊧ 朝5:55

㊨ 朝5:15

ラ ジ オ 関 西 ㊦~㊧ 朝5:00

㊨ 朝6:05

2月のテーマ「思いやり」

緊急事態宣言により、掲載の行事が変更になる場合もあります。各団体にご確認ください。

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

Tel・Fax/079(431)8601